

平成30年度 赤ちゃんと小学生のふれあい体験事業 実施報告

1. 趣旨

近年、社会の中で核家族化、少子化が進み、子どもが成長する過程で、自分より小さな子どもや、赤ちゃんに接する体験がないまま、大人になる人たちが増えています。結婚をして親になった時に、初めて赤ちゃんに接することになり、実際に赤ちゃんを目の前にして、どう接して良いか戸惑うことも少なくありません。

国は昨年、乳幼児とふれあう取組みを、児童館の新たな取組みとして位置づけ、市でもこの事業を、子ども・子育て支援事業計画の施策として位置づけ実施しています。児童センターが、地域の親子を募集し、6年生が成長の過程で赤ちゃんとのふれあい、関わることにより、赤ちゃんを身近に感じ、命の尊さに関心を持つ機会とします。



2. 実施要領

小学生	親子とのふれあいを通し、赤ちゃんの愛らしさや温かさ、子育ての喜びや大変さ、親への感謝の気持ち、家族との絆の大切さ、また、命の大切さを感じる機会とします。
親	参加する親は、赤ちゃんとの関わる姿を通して、わが子への愛情を再確認すると共に、自分の子どもの成長や、将来をイメージします。 事業に参加することで、親になる次世代の教育を支援する、という社会参加、社会貢献に繋がっていることを感じ、保護者自身の子育てに対する評価と自己肯定感を高めます。

3. 実施までのスケジュール

日程	実施事項	内容
平成30年3月	実施校担当教諭との打ち合わせ	・概要の説明と実施場所の確認
実施日より3週間から1か月前の間	担当教諭、実施クラス担任と打ち合わせ	・日程、時間、内容、流れ、役割分担の説明と確認
各校実施日 6・7・11月	事前学習（おもちゃ等の搬入） ふれあい体験 振り返りの授業の実施	・ねらい、配慮事項 ・人形を使って抱き方の練習 ・乳幼児親子とふれあい ・担任による振り返りの授業

4. 開催日時・場所・実施人数

赤ちゃんが安心できる、安全な環境で、赤ちゃんの生活のリズムを考え、機嫌の良い午前中に開催しました。

実施校	日にち	親/子 人数	小学生	ふれあい体験場所	事前授業場所
つつじが丘小学校	6月14日(木)	19組 21人	33人	集会室	つつじっ子ホール
	6月15日(金)	18組 21人	29人		
旭南小学校	6月20日(水)	21組 25人	32人	なかよしホール	視聴覚室
	6月21日(木)	14組 14人	32人		
旭東小学校	6月22日(金)	20組 23人	31人	大会議室	6-1教室
新田小学校	7月3日(火)	21組 28人	41人	中ホール	大ホール
	7月4日(水)	21組 29人	41人		
	7月5日(木)	19組 26人	40人		
八幡小学校	11月15日(木)	27組 34人	39人	大ホール	中ホール
	11月16日(金)	20組 27人	39人		
	11月20日(火)	20組 24人	39人		
	11月21日(水)	20組 23人	41人		

5. 内容

事前学習（各校1日目1時限目 6年生全クラス対象）

●前日、または当日朝、おもちゃや運動遊具など、使用する物品を、ふれあい体験の会場へ搬入し、体験へのイメージをわかせる、気持ちを高めました。

●児童センター指導員から、体験の目的や、ふれあいにあたっての注意事項を聞いたり、新生児人形を抱っこすることで、実際の赤ちゃんの重さを体感したりし、赤ちゃんの命と真剣に向き合えるような動機付けを行いました。また、体験前に赤ちゃんやってみようことやお母さんに聞いてみたいことを事前質問用紙に記入してもらい、体験に臨めるようにしました。



●ふれあい遊びの練習をしました。児童が、赤ちゃんにさわって、反応をみながら遊ぶ体験ができるように、「ふれあなあそび」を意図的に取り入れています。「いっぽんばしこちょこちょ」など、友だち同士で赤ちゃん役とお母さん役になり、指導員と共に行いました。赤ちゃんとのふれあいを楽しみにしながら、照れながらも笑顔で練習しました。



ふれあい体験（2. 3時限目）

●出会い

親子と小学生のペアを作り、玄関で出迎えた後、自己紹介をし、受付からふれあい会場まで親子を案内しました。お母さんの荷物を持ってあげたり、手をつないで歩いたりしながら、会場まで一緒に移動しました。会場に着いた後は、それぞれ気に入った場所やおもちゃで遊び始めました。赤ちゃんも児童たちも、少し緊張しながらの、ふれあい体験スタートです。



●自由遊び

おもちゃ、運動遊具などで自由に遊ぶ中で、赤ちゃんにふれたり、実際に抱っこさせてもらったりして、楽しい気持ちを親子と共有しました。また、赤ちゃんの保護者に質問をしたり話したりする中で、子育ての楽しいことや大変なこと、親の思いなどについて知ることができました。



●ふれあい遊び（一体感を感じる遊び）

事前学習で練習したふれあい遊びをしたり、簡単な集団遊びをしたりする中で、親子がふれあう様子、赤ちゃんのうれしそうな表情などに気づく機会となりました。



振り返り授業

担任が、ふれあい体験を振り返る授業を行いました。（約30分間）

体験を終えて、自分の考えや気持ち（気づいたこと、感じたこと）を感想用紙に記入してもらったり、クラスで話し合いをしてもらったりしました。



6. 質問用紙、感想から（抜粋）

●体験前日までに、次の質問について考えてもらいました。

質問1：赤ちゃんが来たらどんなことをしたいか

質問2：赤ちゃんは、どんなこと、どんな遊びをすると喜ぶと思うか



●体験後、「実際に体験してみてどうだったか」答えてもらいました。

質問1について、「したいと思っていたことができた」「少しは思うようにできた」と84%の児童が回答しています。

質問2について、「やってみたら喜んでくれて嬉しかった」と65%の児童が回答していますが、「やってみたら喜んでくれているのかわからなかった」「思うようにやれず難しかった」と30%の児童が回答しています。赤ちゃんと過ごし、自分の考えたようにはいかない大変さと同時に、かかわり方や赤ちゃんのことが少しわかったようです。

●「ふれあい体験をしてみてどうでしたか？」と終わった後の感想を答えてもらいました。

「かわいかった」「楽しかった」と、約90%の児童が回答し、「また会いたい」「体験して良かった」と、約80%の児童が回答しています。

自由記述の中には、「いつもつんつんしている男子が赤ちゃんにはとても優しくなり性格が変わりました。赤ちゃんって不思議だなと思いました。人を変え穏やかにしてくれました」「自分もこんなふうだったのかと思って父母に感謝しました」という意見がありました。

赤ちゃんとのふれあいを通して、「かわいい」だけでなく、自分や友だちについても考える機会にもなったことがうかがえます。



●「自分と家族のつながり」「命の大切さ」について思ったことを答えてもらいました。

- あんなに小さい赤ちゃんが私たちみたいに大きく成長しているから、私を見守って大切に育ててくれている家族っていいなと思いました。たくさんの人に支えられている一つの命（自分）を大切にしたいです。
- 赤ちゃんは人形よりもちょっと重かったです。赤ちゃんも命があるので抱っこする時ちょっと緊張しました。
- 今は私のお母さんは叱ってばかりだけど、私が小さい時はあんなにかわいがってもらっていたんだなと思いました。
- 自分は小さい頃からすごくかわいがってもらっていると思うと嬉しい。僕を育てるのはすごく大変だったとわかり、産んで育ててくれた家族に感謝したい。
- 「元気に生まれてきてくれたらそれでいい」と聞いて、そういう風に思われていたと初めて知った。こんなにかわいくて楽しいので大人になったら家族をいっぱい作っていきたい！
- 自分は家族に大切にされてここまで育ったことがわかった。命は大切で自分だけじゃなくて家族のものでもあるのかなと感じた。



参加保護者の感想（アンケートより抜粋）



- 初め緊張して私にべったりだったのが、最後にはお姉ちゃんと手をつないで二人で歩くことができました。あきらめずに話しかけてくれたおかげです。参加してみてよかったです。
- 一人一人が考えて行動できるところがすごいと思いました。我が子にもこんな風に成長してもらいたいと思いました。
- 母よりも「お兄ちゃんにしてもらいたい」という気持ちがたくさん見られて、なんだか嬉しく思いました。

- 周りの雰囲気が変わると息子が少し緊張したのがわかって、「いろいろと感じとっているんだな」と感心しました。小学生の子たちが想像以上にしっかりしていて驚きでした。「息子もあっという間に大きくなるんだろうな」と思うと、一日一日大切に過ごそうと思いました。

- いつも私と子どもたちだけで遊ばせていたので、小学生のお兄さんお姉さんたちと遊ぶのが新鮮で「こんな遊び方があるんだ！」という発見がいっぱいありました。私もとても勉強になりました。

- 「10年後にはこんな素敵な子ども達に成長してくれているといいな」と思って眺めていました。対面してすぐ「かわいい」と言ってくれて私（母）も嬉しかったし、安心して過ごすことができました。



教諭アンケートより（抜粋）

【体験後における児童の変化や気づきについて】

- 来てくださった親子の様子を見て自分が赤ちゃんだった時もこんなにかわいがってもらったことに気づき、家族に感謝の気持ちをもつ児童がいました。
- 親の偉大さ、感謝等、自分も幼い頃はこの赤ちゃんたちのように可愛がられていたことに気付いていた。そして「自分自身を大切にしていきたい」と言っていた児童もいた。
- 実施前は「楽しみ」という気持ちだけだったが、実施後は「大変だった」とか「命の大切さを改めて感じた」という感想が多かった。
- 育ててくれた親へ感謝する気持ちを表現する児童が増えました。



【ふれあい体験が児童にとってどのように活かされたと思うか】

- 両親に大切に育てられてきたこと、親の大変な苦労があったことを具体的に感じられたと思います。
- 改めて家族への感謝の気持ちや、小さな命も同じように生きていることを感じてくれたと思います。
- 体験後に振り返りを書かせると、赤ちゃんとのふれあいについての記述が多くなるかと思っていましたが、実際には、「自分もこうだったのか」「お父さんお母さんもこんな気持ちだったのか」という記述が多かったのに驚きました。自分と家族の関係を考えるのに活かされたのではと思います。
- 自己肯定感を高めていける授業だったのではないだろうか。思春期に入り自分に自信を失いかけている児童も少なくない。幼き頃の自分と赤ちゃんを自然と重ねることで、自分というものを見つめるきっかけになったのではないか。



7. まとめ

ふれあい体験を通して小学生は赤ちゃんのかわいさを実感し、小さな命を思いやる姿が見られました。そして、子育ての大変さを間近に見たり、聞いたりすることで、自分が大切に育てられてきたと感じ、家族への感謝の気持ち、命の大切さを学ぶ体験ができたように思います。

参加した保護者は、自身の子育てを振り返り、わが子の成長を楽しみに感じていました。このことは、自身のこれからの子育てにいい影響を与えていくことと思います。また、赤ちゃんも、小学生のお兄さん、お姉さんに遊んでもらうことで、人への興味関心がさらに増し、これからの人間形成に重要な経験となったことと思います。

